

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

第0103号

2025.3月号

NPO法人福岡実践人

令和七年

再生

ご飯が喉を通ってしまいうまでお茶を口に入れない
これ食事の心得の根本要諦である。(飯菜交互別食法)

森信三先生一語千鈞より

山又

山又



再生の題字(森廸彦様提供)は、森信三先生の直筆です。

父親人間学入門

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風読書会 第一〇三回 2月15日(土)
場所：仁風庵

―父として・人間として―

十三 親と老後と自分の老後

老人福祉の問題 前章においては、娘・息子の結婚問題について、それへの配慮の一部をご参考までに述べた次第ですが、それと相前後して両親(祖父母)もいわゆる晩年期に入り、その扶養と見送りの問題が、大きくのしかかってくるわけがあります。とりわけ長男であり、奥さんがこれまた長女であった場合には、双方の両親四人の老後を見なくてはならない運命になるわけがあります。

いま日本における家族構成の変化をふりかえってみますと、戦後急激に増えた人口も、住宅難や食糧難にともない、それと同時に育児制限説に刺激をうけて、急激な人口減を来しつつある実情であります。ところが朝鮮戦争を契機として、産業の高度成長期に入り、山漁村から都会への人口の大移動が始まったのはご承知の通りであります。その数、わずか十八年間に約三千万近い人口が都会へ流れ出たわけで、これに反して農家人口はわずか十二パーセントを割る有様になつたのであります。これがいわゆる核家族への分裂とその誕生といわれるものであります。そしてこの原因は、都会への転出が大きな原因の一つではありますが、その裏には、親兄弟との同居を極端に嫌悪する風潮が世にはびこり出したのも重大な一因だと申せましょう。

その後、西欧の福祉国家の影響を受け、民主主義日本としてはこれに遅れてならじとして、老人福祉問題が大きくクローズアップされ、彼の地その福祉制度のおくれに追いついて来たわけでもあります。老人年金、老人無料治療―等々まことに結構な時代になつたわけですが、他面、ややその行き過ぎの見直しが行われつつあるようでもあります。

というのも、日本の今の現状から推定しますと、二十世紀が終了する以前に、日本は五人に一人が六十歳以上の老人大国となるそうであります。これは世界でも類を見ないほどで、もしこのまま現在の制度を推し進めると、日本は六十歳以上の老人を二人の若い人が支える国家になり、こうなつては、若い人から八十七%税金を納めさせてもまだ足りないというほどで、何のための社会保障か判らないのであります。

扶養の義務と責任 こうした日本の将来を見通した上で、わたくしたちは、つねに脚下の現実に対処しつつ生きていかねばならぬわけがあります。それゆえ老人福祉の問題も、今後は、これまでやや甘すぎた面が是正されるのではないかとわれ、そういう将来の方向だけに、両親扶養の負担がしだいに重くなるのを覚悟せねばならぬと思われまします。世の中をながめますと、老後の片親を長男夫婦が引きとらず、二男夫婦も又それを回避し、遂に片親が老人ホームの世話になつている例が少なくないようであります。尤もそれにはそれなりの事情があり、一概に責めるわけには参らぬ場合もありましよう。

たとえば、夫婦共稼ぎで親の面倒を見る時間がないとか、また家計が貧しいとか家が手狭で養うゆとりがないとか、いろいろの理由があるとは思われますが、ただ人間としての心情からしても、また東洋の伝統としての心情だけは、何とかして失いたくないものであります。これが、わが日本民族の伝統としてつたわる良風美俗の中でもその最たるものと思うのであります。例えば、親とは無限の祖先系列の代表者であり、「血」の継承者であります。それゆえ、わが体内を駆けめぐり、脈々と鼓動している血流の中に、先祖伝来の血が脈打っているわけであります。それゆえ親を軽視する者は、実はおのれ自身をさげすむわけであり、おのが

運命を呪うものともいえましょう。それ故また親を敬愛する者は、自分自身を敬愛することになり、自己の運命の繁栄律につながることを、わたくしどもは今や改めて知らねばならぬと思うのであります。

現代のように、物質第一主義で、すべて合理的ワリキリ主義の風潮の時世に、「考」の哲理を説くことは甚だむづかしいことですが、しかしこれはタテの道德の根本として、人間の「生」の根本哲理と思うのでありまして、この事については、この叢書の第六集の「現代における考の哲理」をぜひ併せて一読頂きたく思います。

敬愛心の種まき さて、話は深遠な哲理の一端に触れましたが、現実の問題にもどして考えてみることにいたしましょう。人間は年がいくにつれて、バイタリテイが衰え、ちよつとした事にも疎外感や孤独感を持ちやすいものですから、深く老人の真理を洞察して、わが家の憲法の「祖父母を大切に——」という一カ条をぜひ掲げることが忘れてはならぬと思います。その条項の細目としては、①祖父母へ朝晩のアイサツを、②テレビチャンネルは祖父母のしているものを、③珍しいお菓子や食べ物はずまず祖父母へ、④入浴の順序はずまず祖父母から……という風に、子どもの躰けを日頃から怠りなきようにしなくてはならぬでしょう。いかに祖父母を大事にするかによつて、その家庭の家風がだいたい窺い知ることが出来るといえましょう。

それから、今なお日本の良俗として、祖先崇拜の念が一般市民の内に根づくく伝えられていることでもあります。盆・正月に故郷の墓参りをかねて、帰郷する「民族の大移動」は、何よりもこれを物語っているといえましょう。この先祖崇拜と祖父母敬愛の念は、今後とも日本の心情の底流として子供達に継承されることとが望ましいと思います。そのためには、何よりも親夫婦が自ら日常その範を示すと共に、事ある毎にそのタネ蒔き——例えば墓参りや法事を通して——の種まきの為されることが望ましいと思われれます。

なお老後の親と同居していない場合の月々の仕送りについてですが、家計の許

す範囲内において、よく夫婦で相談の上、決定もしくは増額することが大事で、この場合、双方両親のあることを忘れないで、よく双方のバランスを考えて、妻の両親へは、毎月の仕送りの代りに盆・正月の贈り物の他に小遣いを差し上げる等の配慮が必要かと思われれます。なお人間は最後は近親者のお世話にならねばならぬわけですから、そのために昔から「末六十日」というコトバが言い伝えられているわけで、つまり両親の最後の世話は、結局奥さんの負担になることですから、奥さんへいたわりと配慮を忘れてはならぬと思われれます。

自分の老後 さて人間は「生・老・病・死」という運命は、何人も免れぬもの故、親の問題としておつた事が、いつかは自分の問題となるわけでありまして。それ故「いや、わしは子どもの世話にはならぬ」というようなコトバは厳に慎みたいものであります。人間最後の「末六十日」は、どうしてもお世話になることを覚悟した上で、イザという時なるべく子供や近親者に負担を掛けぬように、経済的にも平常から心掛けることが大切でしょう。

そのためには、万一の準備としての別途積立も必要といえましょう。いづれにしても、人間最後の総決算はなかなか大へんゆえ、人間一生の宿命をしつかりと見据えた上で、自己の生き方を日々に自問自答せねばならぬと思われれます。



第一章 掃除が奇跡を起す

掃除の波紋は広がる

「日本を美しくする会」が発足したのは平成五年十一月。「日本を美しくする会」の推進する「掃除に学ぶ会」の第一回が、岐阜県恵那郡明智町（現在は恵那市）の日本大正村で開催されました。

このときからずっと世話人を務めてくださっている田中義人さんとの出会いが、「日本を美しくする会」発足のあしがりとなりました。田中さんは岐阜県で電子部品製造の会社を経営する社長さんで、出会いのきっかけはまったく掃除とは関係のない場でした。

しかし、そのときに私がお話したことによって、自分の家の前の汚かった神社の境内を一人で掃除しはじめ、凛とした空気が戻ってきたことに手応えを感じて自分の会社でも掃除の実践を開始。汚れていた工場は、掃除の効果で不良品が出る確率が格段に下がり、業績もアップしました。

その田中さんたちを中心に、第一回「掃除に学ぶ会」は開催されたのです。そこに参加された三十五名の方々が、それぞれ自分の地域や会社でまた新たな取り組みをされ、その運動が各地に広がりました。

こうして第一回から八年後の平成十二年、「掃除に学ぶ会」は日本全国四十七都道府県で開催されるようになりました。さらに、平成

七年にブラジル、九年に中国、十五年にはニューヨーク、台湾でも「掃除に学ぶ会」が発足し、掃除の運動が少しずつ広がっています。

「掃除に学ぶ会」は、自ら手足を使い、身体で掃除のもつ力を体験した有志の方々によって支えられています。「それはいいことですね」と頭で理解するだけの人とは違います。

掃除の実践は一度体験すると、誰かに伝えたいくなるパワーをもっています。自身の体験を、「ぜひ人に伝えたい」という熱い気持ちをもった人々が、次々に新たな人とともに実践を積み、さらに大きな輪となって広がっていきます。まさに一滴の水が大きな波紋を描くように、人から人へ、「身を低くして手足を汚すことをいとわず行う」ことの大切さが伝わってきます。

私はそのことに一筋の希望を感じ、皆さんの熱い気持ちに日々励まされています。



日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 375 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 **ハウスマイト**



第375回 博多駅早朝清掃 32年目

2月8日(水曜日)

25名参加



博多駅早朝清掃が375回目、十五年ぶりくらいに思い出して参加された方がいらっしゃいました。続けていてよかったなあ！と思える瞬間でもあります。毎月8日と決めて帆足先生が始めてくださったから8日という日を覚えてくださっている。すべてに意味があるのだと思います。お掃除の神様「鍵山秀三郎相談役」が天界へ旅立たれました。後に続く者の役割として、お掃除道の善き文化を絶やさず繋いでいくことをご恩送りとさせていただきます。

世話人：けさえもん 拝

“祝卒業”

そら

8日の清掃に参加するようになって、博多駅周辺が自分の手で綺麗になることや、清掃中すれ違う人に「ありがとう」や「頑張ってるね」と声をかけてもらえることが嬉しく、もっと頑張ろうと思えました。

また、司会を通してたくさんの人達と関わることはすごくいい経験になったし、進学先でも奉仕の精神を大切にしていきたいと思いました!!



ていら

今までボランティアをすることがなかったのですが、高校2年生から8の日清掃に参加し、今回表彰を受けるまで12回も参加できたことに達成感を感じました。

そしてただゴミを拾うだけでなく、8の日清掃の関係者や参加されている方とも関わって嬉しかったです。これからも沢山のボランティアに参加していきたいです。



ゆい

約2年間8の日清掃に参加し、そこでボランティア活動のありがたみを改めて感じました。

最初は、少しでも誰かの役に立ちたいという思いから清掃活動に友達を誘って参加していました。そこでだんだんとボランティアに参加している方々と交流する機会も増え、楽しくてまた来たいと思える場になりました。

さらに、司会もさせて戴き、普段は緊張して人前に出ることが苦手な私ですが（じゅんじゅん）や（くさえもん）にサポートして貰い、話すことがだんだんと出来るようになりました。この清掃活動は博多駅がきれいになるだけではなく、人との交流の大切さや自分を成長させてくれる貴重な活動だと感じました。

この経験を活かして次の進学先でも色々なボランティアに参加してみたいと思いました。

あやな

私は8の日清掃に参加し、ボランティア活動の重要性を改めて感じました。普段利用している駅でこのような活動が行われていることを知り、それ以来、以前より感謝の気持ちを持って駅を利用するようになりました。

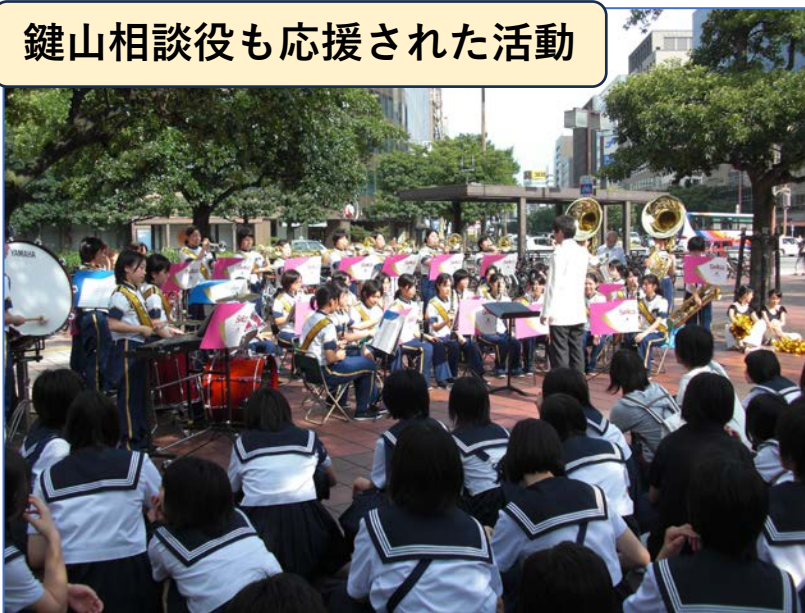
また、8の日清掃を通じて地域に貢献できていることに嬉しさを感じ、やりがいや楽しさを実感しました。他の参加者とのコミュニケーションを通じて、コミュニケーション能力も向上したと思います。今回の経験を生かし、今後も積極的にボランティア活動に参加していきたいと考えています。



精華女子高等学校で3年生4名と2年生2名、教頭先生と目標共有素晴らしい話し合いが出来ました。

“新たな第一歩を歩き始めた精華女子高等学校生徒会“

鍵山相談役も応援された活動



精華女子高等学校の3年生四人組が、博多駅早朝清掃の司会を約一年間勤めてくれました。その子供たちも3月3日に卒業式を迎えます。博多駅早朝清掃で掃除の大切さ有難さを実感した3年生が2月27日、教頭先生を立ち合いの下、2年生へとその役割のバトンを引き継ぎました。右の写真は2009年生徒会主催で行われた「博多駅クリーンアップデー」の様子です。吹奏楽部の演奏で始まり約400名規模で博多駅の一斉清掃を過去7回開催してきました。復活再開に向けてスタートします。

風化させないために



“一歩を踏み出す“

2025.2.10 於：新宿駅東口&歌舞伎町清掃



JR新宿駅長他職員4名参加



袈裟右衛門と田中顧問とJRの皆さん



全国各地から新宿駅の早朝清掃に参加 “駅前清掃で世界平和を♡”

2025.2.11 於：埼玉県深谷市 渋沢栄一翁の足磨き



毎朝5時55分に渋沢栄一翁の「仕事と人生を成功に導く365の金言」人間力を高める言葉を福岡掃除に学ぶ会のLineグループの道友宛てに配信させていただいています。

昨年2月29日からスタートしましたので、今月28日で終了します。一年間有難い言葉をくださった渋沢栄一翁に感謝の気持ちを込めて、銅像の足下を、深谷市・川越市の農友と磨かせていただきました。

けさえもん 拝

2025.2.11 於：都立青山高校(ルーツ：菅刈公園)



都立青山高校の早朝掃除の起源は目黒区菅刈公園です。鍵山相談役が始められ多くの師友道友が相談役の指導を受けました。平成13年から相談役と共に19年間にわたり菅刈公園のお掃除にほぼ365日毎朝取り組まれていました。前触れもなく訪ねても当たり前に様に温かく迎えてくださいました。

その菅刈公園清掃も活動場所を2020年1月より青山高校に移りました。その縁ある青山高校に初参加させていただきました。

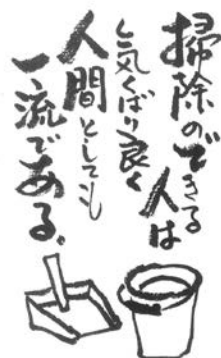
2025.1.25 於：太宰府市戒壇院



ご住職（左）と戒壇院作務代表世話人（右）



ほぼ毎回ご住職も一緒にお掃除されてます



戒壇院作務は、令和になって元号の起源となった太宰府の坂本神宮に多くの観光客が全国から訪れるようになりました。福岡掃除に学ぶ会も阿部豊さんを博多にお招きし、令和元年12月8日、26周年記念大会を実施いたしました。大会の翌日、県外から来てくださった道友約20名で戒壇院を訪問させていただき本堂見学と座禅体験をさせて頂きました。その翌月令和2年1月より毎月1回戒壇院境内のお掃除をさせて頂いています。

～古き良き時代の日本再生～

とんぼろ

Instagram



@RAKUNOUJIN1962

＝ ＝ ＝ 心を耕し、生を拓く ＝ ＝ ＝

＝ 二 一 〇



とんぼろ掃除に学ぶ会／薩摩川内市 in長目の浜

第24回 長目の浜海岸清掃 《楽農人／とんぼろ海掃隊》



後援



誰の所有物？



誰の所有物？



大きな疑問



誰の所有物？



誰の所有物？



どうやって運び出すの？

田之尻展望所下の海岸

こしき島「長目の浜」は、こんな状態です。平成27年に国定公園の指定を受けましたが、漂着ごみまで含めての国定公園化なのでしょう。国定公園に指定されるまでは、鹿児島県・薩摩川内市等が多少なりとも予算を立て漂着ごみの処理を行ってきましたが、国定公園に指定されて以降その管理の所在がはっきりしない状況下にあるようです。楽農人は毎月、福岡から自動車とときに新幹線で薩摩川内市へ串木野新港からフェリーに乗って甑島に渡ります。写真に見れる通り海岸一面4キロにわたり漂着ごみで埋もれています。あ！一寸言い間違いました。ここに写っているゴミらしきもの「タイヤ」「定置網のブイ」「電線を巻く太鼓」これらは産業廃棄物扱いで所有権が存在するそうです。ですから処分できないのだそうです。高校卒の愚生には理解できません。移動すると窃盗に当たるといふ人もいます。国定公園ってどんな枠組みで指定されどんな管理をされているのか全く分かりません。「国定公園内の自己所有の山の枝も折ってはいけない」といふ住民もいます。わけわかりません！！

誰か教えてください！！

楽農人：富吉袈裟右衛門 拝



	3月							4月					5月			
日	2	8	11	15	16	19	22 23	5	8	19	20	26	5	8	17	18
曜	日	土	火	土	日	水		土	火	土	日		月	木	土	日
行事活動名	長目の浜海岸清掃 第26回	博多駅早朝清掃 第376回	鍵山相談役と阿部さん追悼お掃除	福岡空港ミリオン清掃 82回 夢拾い	戒壇院早朝作務 第22回	第5回 国会掃除に学ぶ会	鹿児島	長目の浜海岸清掃 第27回 年次大会	博多駅早朝清掃 第377回	福岡空港ミリオン清掃 83回 夢拾い	戒壇院早朝作務 第23回		長目の浜海岸清掃 第28回	博多駅早朝清掃 第378回	福岡空港ミリオン清掃 84回 夢拾い	戒壇院早朝作務 第24回
場 所	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	目黒川菅刈公園	福岡空港周辺 10キロ	太宰府市戒壇院境内	第一衆議院議員会館		鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内		鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内
開始時刻	6時30分	6時15分	7時00分		6時30分	14時15分		6時30分	6時15分		6時30分		6時30分	6時15分		6時30分
運営団体	楽農人 とんぼろ海掃除隊	福岡掃除に学ぶ会	青山高校お掃除道友	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	国会掃除に学ぶ会		楽農人 とんぼろ海掃除隊	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	NPO法人楽農人	楽農人 とんぼろ海掃除隊	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会

上記行事予定表は、富吉の参加予定の行事を掲載させていただいています。
その他、活動しているお掃除実践もごございますので、事務局にお問い合わせください。

発行人(編集人)富吉 袈裟右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ掃除に学ぶ会

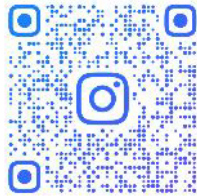
〈合同事務局〉〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 《仁風庵》

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



@F_JISSENJIN



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。